6/17 熊本県花き園芸功労者表彰式

6月17日、令和3年度熊本県花き園芸功労者表彰式が熊本県経済農業協同組合連合会ホールで開催され、小堀孝二さん（第八駐在）が表彰されました。

この表彰は、熊本県の花きの振興および発展のために尽力された団体または個人に贈られるもので、長年にわたり阿蘇の冷涼な気候を活かした高品質な花づくり（バラ）に尽力され、その功績が高く評価され、今回の表彰となりました。

7/7 高森高校×南阿蘇中学校 meetupイベント

7月7日、高森高校で高森高校の1、2年生と南阿蘇中学校の3年生とでmeetupイベントが開催されました。イベントを通して、高校生はこれまでの自己を振り返りながら自身の将来に対し新たな目標を設定する機会とし、中学生は高校受験における進路選択の一助となる機会を設けるためにおこなわれました。

普通科グローカル探究コースでは4つのグループ（局）に分かれ日ごろ学んでいることを発表。来年4月に新設されるマンガ学科ではクロッキー（対象を素早く簡易的に写生）の体験がおこなわれました。

7/11 保育園児へ南阿蘇の旬の贈り物

7月11日、ちょうよう保育園でJA阿蘇南部トマト部会からトマトの贈呈がありました。この取り組みは毎年実施されており、今年も村内の3保育園に対して箱いっぱいの真っ赤に熟したトマトが届けられました。

トマト部会の村上友紀彦さん（東下田）からは「トマトはとても体に良いので、たくさん食べて暑い夏を乗り切ってください」と話があり、トマトが大好きな宮﨑夏輝くん（下野）からは「おばあちゃんにいつも切ってもらうトマトが大好きです」とコメントがありました。

7/21 南阿蘇の大地と生命の力を消費者に届けたい

7月21日、農事組合法人「喜多」により、阿蘇神社への祈願がおこなわれました。「喜多」では、古くから続けられている稲作文化を後世に引き継いでいくため、無農薬・無化学肥料による地球に優しい米作りを実施しています。

今回の祈願は、無農薬で栽培された酒米を原料に白川水源の水を加えて作られた焼酎である「みなみあそ」と「喜多（20度・43度）」を通して南阿蘇の大地と生命の力が無事に消費者へ届くようにおこなわれたものです。

7/25 海っ子山っ子交流キャンプ

姉妹提携している長崎県新上五島町と南阿蘇村子ども会の合同キャンプが7月25日から27日までの3日間の日程でおこなわれ、村内の21人の小学生が参加しました。今回はコロナの影響で子ども同士の交流はできませんでしたが、海水浴やシーカヤック、魚釣りといった海ならではの体験活動をすることができました。

また、本年は熊本県立高森高等学校の高校生がボランティアで参加し、高校生と一緒に活動することでしっかりと団体行動に取り組むことができました。

7/27 学校給食担当者研修会

7月27日、役場大会議室で阿蘇郡市学校給食担当者等研修会と令和4年度学校給食ふれあい教室が開催されました。これは、学校給食の充実と調理衛生意識の高揚並びに各学校における食育の推進を目指し、阿蘇郡市内の学校給食関係者を対象におこなわれたものです。

当日は感染症対策に最大限に取り組んだうえで、人数も限定して開催。元食肉解体作業員の坂本義喜さんを講師として招き、食に携わる仕事において大切なことなどを改めて学びました。

7/31 地区で初めて小さな里山の夏祭り開催

7月31日、沢津野地区にて地元有志の団体「沢津野早角会」主催による地区で初めての夏祭りがおこなわれました。祭りでは、地元の野菜や、焼きとうもろこし・わたあめ・キッチンカーでのかき氷などが出店されたほか、手製の水槽に放した50匹のヤマメのつかみ取りでは、子ども達が最後の1匹までつかまえ、その場で塩焼きに。また祭りの最後には、研修をうけたメンバーで約15分の花火が打ち上げられ、直前までの雨で着火に間があくと「花火～がんばれ～！」と声援が飛び、参加者からは「ぜひ来年も開催してほしい」との声が聞かれました。

8/1 九電黒一広報室開設

8月1日、旧立野小学校に九州電力の広報室がオープンしました。この広報室では防災啓発情報や黒川第一発電所復旧工事情報、立野地域情報についての防災グッズやパネル、水力・風力発電の実験模型の展示などがおこなわれます。

防災啓発情報コーナーでは『歌う防災士 しほママ』でお馴染みの柳原志保さん監修による日頃の備えや避難所で役立つ知識などを発信。旧立野小学校は避難所であるため、見学の希望がある場合のみ広報室が開設されます。見学の申込みは℡096（386）2361（九州電力）です。